

ピーマン半促成栽培に適した PMMoV 抵抗性品種の選定

[研究のねらい]

県内のピーマン産地では、臭化メチル全廃を前に土壌伝染性ウイルス PMMoV（トウガラシマイルドモットルウイルス）抵抗性品種の導入が検討されています。そこで、PMMoV 抵抗性の12品種の特性調査を行い、ハウス半促成栽培に適した品種を選定します。

[研究の成果]

- ①「みおぎ」と「1485」等5品種は、果実が軽く、果肉が薄く軟らかい品種に分類できます。「武蔵 NR-15」と「とさ黒潮」等4品種は、果実が重く、果肉が厚く硬い品種に分類できません。「さらら」は果実色が最も濃い品種です（表1）。
- ②可販果収量が多い品種は、「武蔵 NR-15」、「みおぎ」、「1485」です。「1485」は4・5月の初期収量が多くなります。上物率は「さらら」、「武蔵 NR-15」、「京ひかり」が高くなります（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- ①「武蔵 NR-15」は枝が伸び易く、過繁茂になりやすいので整枝を徹底し受光体勢を良くします。
- ②「みおぎ」は過繁茂になりやすく果形が乱れやすいため、主枝採り中心の十分な整枝を行います。
- ③「1485」は、栽培初期から着果量が多く着果過多による樹勢低下に注意するとともに、高温乾燥期に尻腐れ果が発生しやすいので土壌水分やハウス内温度の管理に注意が必要です。
- ④抵抗性品種を侵す新たなウイルスの出現を防止するため、抵抗性品種に頼った長期の連作は慎んで下さい。

表1 ピーマン品種の果実特性と収量特性

(2005年)

特性	品種	果重 (g)	果実長 (cm)	果径 (mm)	果肉厚 (mm)	果実色	果実硬さ (貫入応力)g	可販果収量 (kg/株)	上物率 (%)
抵抗性品種	みおぎ	32.3	9.0	42.6	2.0	4.3	792	5.5	61
	1485	30.7	8.2	42.4	1.9	3.8	716	5.7	66
	みはた2号	30.6	7.5	45.0	2.0	3.8	752	4.6	71
	京鈴	30.4	8.0	41.3	1.9	3.6	821	4.4	69
	土佐のぞみ	31.9	8.2	43.2	2.1	4.1	769	5.0	72
	武蔵NR-15	36.0	7.6	43.0	2.6	5.1	1,051	5.6	79
	とさ黒潮	35.1	7.8	43.5	2.6	4.6	1,081	4.9	71
	オールマイティ	36.0	7.6	45.0	2.5	4.9	964	4.8	85
	スーパーかがやき	34.9	7.7	44.3	2.4	4.7	870	4.7	73
	その他	さらら	34.6	9.0	41.0	2.1	6.3	825	4.5
	バグ1号	34.1	9.3	39.2	2.2	4.3	868	3.9	49
PMMoV 抵抗性無し	緑豊R	32.0	7.8	45.2	2.0	3.8	837	5.2	66
	かがやき	32.7	8.3	42.5	2.2	4.3	725	5.0	73
	スーパー土佐かつら	29.7	7.8	42.1	2.1	3.9	835	5.1	63

注) 調査は6月6～8月11日に10回、各回5果ずつ、合計50果で行った。果実色: 富士葉色カラースケールにより測定、数値が高いほど濃緑。
耕種概要: 播種: 2月9日、定植: 4月15日、収穫期間: 5月23日～8月25日。

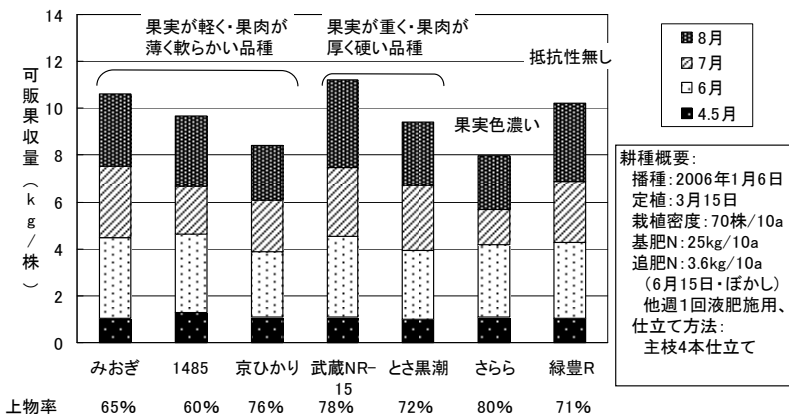


図1 ピーマン品種の時期別可販果収量(2006年)

注) 収穫期間: 4月24日～8月31日、上物率=上物収量/総収量、

可販果: 上物(秀品)+下物(優品)の合計

実施年度: 平成 17～18 年度

担当者: 東卓弥・衛藤夏葉